農業と科学　昭和63年7月1日(毎月1日発行)第374号
昭和31年10月5日　第3種郵便物認可
発行所 〒112 東京都文京区後楽1－7－12林友ビル
チッソ旭肥料株式会社
編集兼発行人：内藤佳之
定価：1部35円

農業と科学

1988 6/7

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

昭和63年度
農業観測の概要について

農林水産省大臣官房調査課
大川雅央

以下は，5月30日に農林水産省が公表した「昭和63年度農業観測」の概要をとりまとめたものである。

1. 国内経済

62年度の国内経済は，これまでの円高の進行等により外需は減少したが，個人消費，住宅投資などの国内民間需要の堅調さと62年5月の「緊急経済対策」の効果等に支えられて，全体としては順調な回復過程をたどり，拡大局面へと移行しており，政府経済見通し（63年1月閣議決定）によると，実質経済成長率は3.7%程度になるものと見込まれている。

63年度の国内経済は，政府経済見通しにおいては，物価の安定を基礎としつつ，内需を中心とした景気の着実な拡大を図ることとしており，実質経済成長率は3.8%程度になるものと見込まれている。しかし，我が国経済は，民間活動が主体をなすものであること，また，特に国際環境の変化には予見し難い要素が多いことから，今後はアメリカを始めとする海外経済の動向，対米ドル円相場と原油価格の動き，併せて国内の財政金融政策の動向等について注視する必要がある。

2. 農業就業人口

農業就業人口は近年減少傾向が続いてきたが，最近は減少率が鈍化しており，62年度は雇用情勢が改善の方向に向う中で，55歳以上の就農者は男女とも増加したが，55歳未満の就農者は男女とも減少し，全体でも1.1%の減少となった。

63年度の農業就業人口は，引き続き高齢者の流入超過があるとみられるものの，高齢化による引退等や雇用情勢の改善による労働力の流出も見込まれることから，年度間では1～3%程度減少すると見込まれる。

3. 農業生産資材価格

農業生産資材の農村価格は，近年，円高による海外原材料輸入価格の下落などから値下がりしており，62年度は，畜産用動物，建築資材等が上昇したものの，他の主要資材は弱含みないし落ち着いて推移したことから，2.0%安となった。

表1　主要な農生産資材価格の動向

（対前年度（同期）騰落(▲)率(%)）

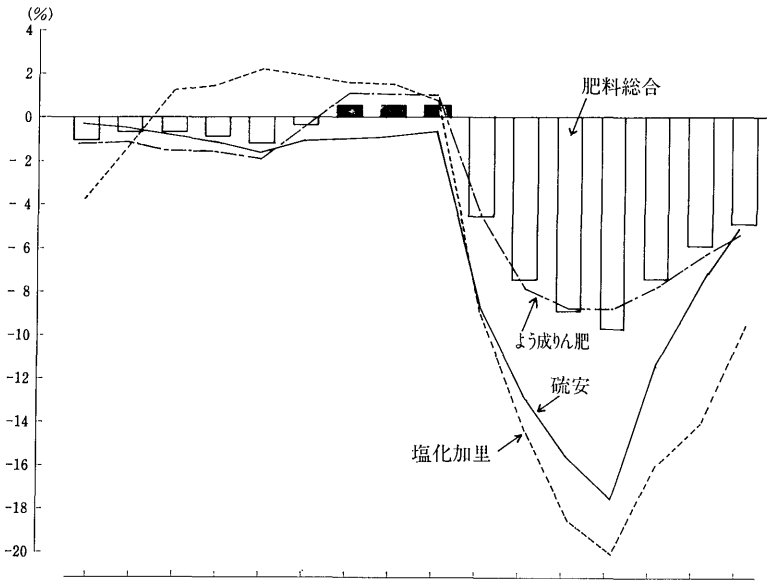
年次	農業生産資材総合	肥料	飼料	農業薬剤	光熱動力	農機具
56年度	3.2	6.3	3.2	3.8	6.8	2.4
57	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 4.9	▲ 0.1	6.4	2.3
58	▲ 0.5	▲ 1.4	2.3	▲ 1.2	▲ 9.0	0.9
59	0.3	▲ 0.8	0.1	▲ 0.1	▲ 2.6	2.4
60	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 8.2	0.1	▲ 4.0	0.5
61	▲ 5.2	▲ 5.0	▲ 17.8	▲ 0.3	▲ 16.1	0.3
62(概算)	▲ 2.0	▲ 6.9	▲ 7.5	▲ 2.9	▲ 5.4	0.1

63年度については，飼料穀物の国際価格は堅調に推移するとみられ，また，原油価格は持ち直すとみられるものの，対米ドル円相場が円高傾向にあることや卸売物価が安定的に推移するとみられていること等から，総じて

本号の内容

§ 昭和63年度農業観測の概要について……(1)
農林水産省大臣官房調査課
大川　雅央
§ LPコート及びLP複合の肥効特性とワンショット®施肥による米づくりについて …(5)
農業と科学編集部
§ くみあいバーミキュライト園芸床土用資材「与作VI号」の使用法……(7)
チッソ旭肥料㈱　技術部

図 1　肥料の農村価格（対前年同期騰落率）



資料：農林水産省「農村物価賃金調査」

落ち着いて推移するとみられ，年度間ではほぼ前年度並みと見込まれる。

4.　農産物需要

食料消費の動向を経済企画庁「国民経済計算」でみると，実質飲食費支出は，近年，緩やかながら増加する傾向にあり，62年度も，民間最終消費支出の伸びが前年度の伸びを上回って推移していること等から，前年度の伸びを上回って増加したとみられる。

63年度の農産物の最終需要に影響する実質飲食費支出は，次のような諸要因からみると，引き続きわずかに増加するとみられ，農産物需要はわずかな増加にとどまると見込まれる。① 63年度の政府経済見通しによれば，実質民間最終消費支出は3.8％程度の増加，消費者物価指数は1.3％程度の上昇と見込まれている。② 63年度の食料品の消費者価格は，今後の円相場の動向等にもよるが，国内農業生産の動向や輸入食料品価格の動向等からみてわずかな上昇率にとどまると見込まれる。③ 最近，食料消費水準が量的に飽和状態に近づきつつあるとみられるなかで，食の外部化，サービス化の傾向が強まっており，食料消費支出は緩やかながら増加するものと予想される。

5.　農産物供給

（国内農業生産）

62年度の農業生産は，畜産生産は1.4％程度増加したものの，耕種生産が3.9％程度減少，繭生産が16.3％減少したとみられることから，農業生産総合では前年度を2.5％程度下回ったとみられる。

63年度の農業生産については，①耕種生産は，作柄を平年並みとみれば，麦類がかなり，花き類がややそれぞれ増加し，野菜及び工芸農作物が前年産並みとなり，いも類及び果実がやや，豆類がわずかにそれぞれ減少すると見込まれる。米については，「米穀の管理に関する基本計画」によれば，生産予定量（主食用等）982万トンに加え他用途利用米約47万トン，合計1,028万トン（前年度1,063万トン）の生産が見込まれている。以上のことから，耕種生産総合では2％程度減少すると見込まれる。

表 2　62年度（4～12月間）に輸入数量の急増した品目

	品目	61年度輸入金額比率(1万分比)	対前年同期増加率		品目	61年度輸入金額比率(1万分比)	対前年同期増加率
生鮮・乾燥もの又は加工原材料	くるみ	9	44.7	加工製品	たけのこ(缶、ビン詰)	27	84.2
	核果(生鮮のみ、さくらんぼ)	10	149.0		チョコレート菓子	33	59.8
	メロン(マクワウリ含む)	7	52.3		ビール	10	72.3
	その他の生鮮果実(キウイフルーツ)	60	52.6		ぶどう酒(150ℓ以上)	7	72.7
	グレープフルーツ果汁	10	60.0		ぶどう酒(150ℓ以下)	48	66.7
	まつたけ	36	74.6		レモネード等	18	304.6
	桐油	5	47.0		紙巻たばこ	125	180.6
	オレンジ油	5	66.8		調製飼料（課税価格が70円／kgを超えるもの、小売容器入）	6	44.2
	甘草	5	106.7				
	鶏(生きた)	6	76.1		ペットフード(10kg以下の気密容器入)	33	65.5
	豚肉	683	45.2				
	カシミヤ山羊の毛	19	102.0		い草、七島い製品	11	113.2
	葉たばこ(バージニア種、骨除く)	128	114.3				
	葉たばこ(その他、骨除く)	15	52.7				
	象げ(粉、くず)	7	120.5				

資料：農林水産省「農林水産物輸出入の数量・価格指数」（綿、羊毛、天然ゴムを除く。55年＝100）

注　：61年度の輸入金額が10億円以上で対前年同期増加率が40％以上のものを掲げた。

② 繭の生産はわずかないしやや減少すると見込まれる。

③ 畜産生産については，肉用牛がやや，鶏卵がわずかにそれぞれ減少するとみられるが，生乳がやや，豚及びブロイラーはわずかにそれぞれ増加するとみられ，全体では1％程度増加すると見込まれる。以上のことから，農業生産総合では，前年度に比べ1％程度減少するとみられ，米を除く農業生産総合では，ほぼ前年度並みと見込まれる。

（農産物輸入）

農林水産省「農林水産物輸出入の数量，価格指数」により農産物の輸入量をみると，近年，総じて増加傾向で推移しているが，62年度（4～12月間）は，肉類，コーヒー，飲料等が大幅に増加し，全体では12.7％増加した。

63年度の農産物輸入量は，今後の円相場の動向等にもよるが，需要が堅調な肉類，飲料等が引き続き増加するとみられ，全体ではかなりの程度増加するとみられる。

6. 農産物生産者価格

62年度の農産物生産者価格は，野菜は天候が不順だったこと等から16.5％上回ったが，果実がみかんの豊作から9.8％下回り，畜産物も7.5％下回ったため，農産物総合では1.9％下落した。

63年度については，需給が総じて緩和基調で推移するとみられることから，前年度をわずかに下回ると見込まれる。主要品目についてみると，① 野菜は，夏秋野菜がほぼ前年産並み，春野菜，秋冬野菜がわずかに下回るとみられ，全体ではわずかに下回ると見込まれる。② 果実については，みかんがかなり，りんごがやや，ぶどう及び日本なしがわずかにそれぞれ上回るとみられ，全体ではやや上回ると見込まれる。③ 繭は，かなりないし大幅に上回ると見込まれる。④ 畜産物は，鶏卵がやや上回るとみられるが，肉用牛及び生乳がわずかに，肉豚及びブロイラーがかなりの程度それぞれ下回るとみられ，全体ではわずかないしやや下回ると見込まれる。

7. 農業生産額

農業生産額は，米の単収が史上最高となった59年度をピークに，以降，農産物生産者価格が横ばいないし低下傾向にあったこと等を反映して微減傾向にあり，62年度は前年度に比べ4.4％程度の減の12兆6,000億円程度になったものとみられる。農業純生産（生産農業所得）は，生産に投下された物的経費の変動によって若干の違いはあるが，農業生産額の動きにおおむね対応して変動しており，62年度は前年度に比べ6.5％程度の減の4兆8,300億円程度になったものとみられる。

63年度の農業生産額は，平年作を前提とすれば，農業生産は1％程度減少し，農産物価格はわずかに下回るとみられることから，前年度に比べわずかに減少すると見込まれる。農業純生産については，生産資材等の中間消費は，農業生産資材の投入量がわずかに減少し，価格がほぼ前年度並みとみられることから，わずかに減少すると見込まれる。このほか，固定資本減耗はほぼ前年度並み，経常補助金は減少するとみられること等から，農業純生産はわずかに減少すると見込まれる。

表 3　農業生産額等の推移

	農業生産額		農業純生産	
	実数(億円)	対前年度増減率(%)	実数(億円)	対前年度増減率(%)
55年度	116,163	▲ 1.6	49,790	▲ 13.7
56	121,917	5.0	49,685	▲ 0.2
57	121,541	▲ 0.3	49,107	▲ 1.2
58	124,964	2.8	48,988	▲ 0.2
59	133,510	6.8	53,716	9.7
60	132,558	▲ 0.7	51,390	▲ 4.3
61	131,768	▲ 0.6	51,665	0.5
62（見込み）	125,970	▲ 4.4	48,283	▲ 6.5

資料：農林水産省「農業・食料関連産業の経済計算」
注　：62年度は官房調査課で試算した。

8. 海外農産物需給

1980年代に入って過剰の様相を強めながら推移してきた世界の穀物及び大豆需給は，1987／88年度に入ってから改善の兆しが見え始めている。

国際取引指標であるシカゴ相場は，1987年秋頃からそれまでの長期低迷傾向から強含みに転じ，品目により程度の差はあるものの，小麦，とうもろこし，大豆等おしなべて前年水準を上回って推移している。

一方，世界の米需給は，1987年6月以降，南西，東南アジア諸国が数十年ぶりといわれる大干ばつや洪水被害に見舞われたことから，既にひっ迫傾向で推移している。

1988／89年度については，以下のとおりである。

(1) 小麦

世界の小麦生産量は，小麦価格が堅調に推移していることもあり，天候が順調に推移すれば前年度をやや上回るとみられるものの，消費量を下回ると見込まれる。このため，在庫量は減少するとみられ，需給改善が引き続き進むとみられるが，在庫水準は依然高いことから，当面需給は過剰基調で推移すると見込まれる。

(2) 飼料穀物

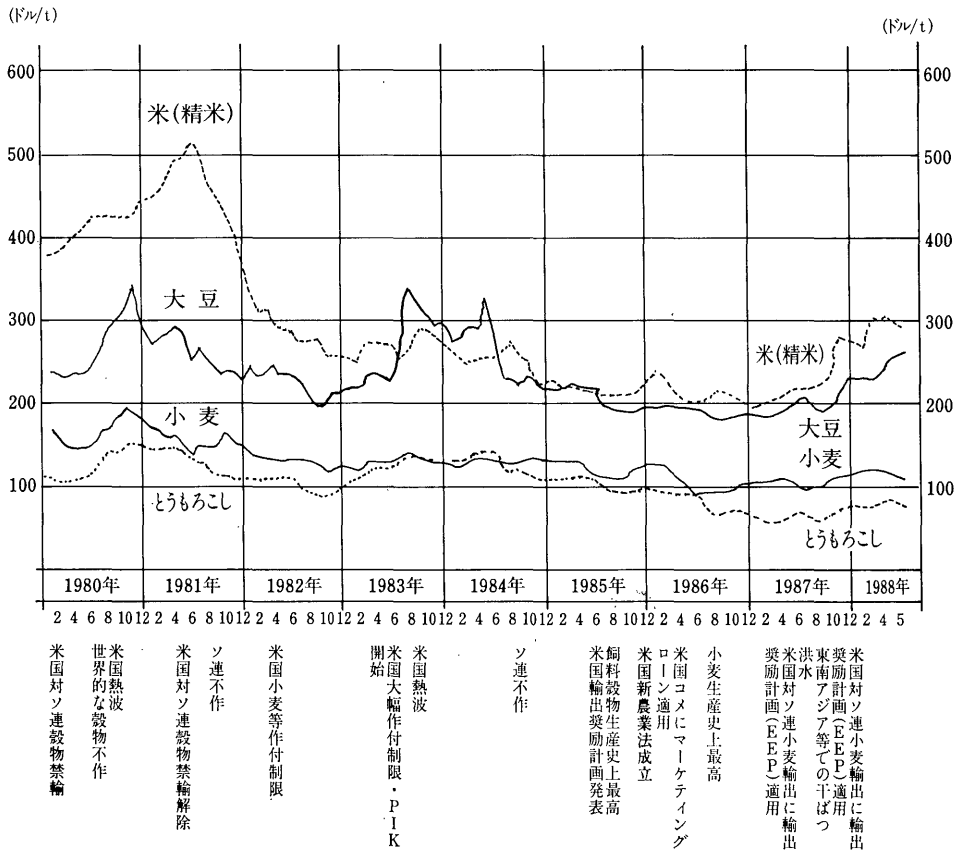
飼料穀物生産量は，世界の生産量の約3割を占めるアメリカの生産がわずかに増加するとみられること，西欧でもやや増加するとみられること，さらに昨年干ばつ被

害に見舞われたタイ，東欧で回復するとみられること等から，わずかに増加するとみられるものの，消費量を下回ると見込まれる。このため，在庫量は減少するとみられ，需給改善が引き続き進むとみられるが，在庫水準は依然高いことから，当面需給は過剰基調で推移すると見込まれる。

(3)　大豆

大豆生産量は，ブラジル，アルゼンチン等で増加するとみられることから，前年度をわずかに上回るとみられ，消費量もわずかに増加すると見込まれる。しかし，需給は在庫水準が低いことから引き締まり傾向で推移すると見込まれ，生産動向によってはひっ迫に転じる可能性もあるとみられる。

図 2　国際価格の推移 —小麦，とうもろこし，米，大豆—



注：1) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場の期近価格(各月第1金曜日)である。
　　2) 米は、タイ国貿易取引委員会(BOT)の公表価格(タイうるち精米、砕米混入率10%のFOB価格)である。